

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根差した生活を大切に、そして、それを継続できるように支援していく。	グループホーム独自の理念を来訪者が目にふれる玄関と職員の仮眠室兼事務所に掲示している。職員は自分の言葉で理念を理解しており、毎日の業務で実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出時の挨拶や散歩の途中や公園などで話し掛けて頂く機会が増えている。回覧板で地域の行事などを知る事が出来る事になった。	自治会に加入し区費の支払いや奉仕活動に参加している。回覧版も廻り、地域の行事が把握できている。コカリナ、将棋や高校生のボランティア等の受け入れがある。地域の「お茶飲みサロン」等へ徐々に参加していきたいという意向もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、まだ認知症の人に対する理解など知らない方が多い支援の方法などを今後行っていきたい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	支援内容や行事、取り組んでいる事などを説明し意図を求めている。	家族、隣組部長、民生委員、包括支援センター職員、市職員で構成され開催している。会議内容が全般に固まってしまっているため内容や進行を今後見直していく方向で検討している。	二ヶ月に1回開催し、地域の方の声をいただき運営に活かすことを望みます。また、運営推進会議を通じて高齢者のケアの在り方等について地域への発信をお願いしたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ボランティアセンターや地区の部長さん、民生委員の方々の意見を伺い、こちらの実情なども説明している。	「介護あんしん相談員」が毎月一名派遣され利用者の相談にのったり、話し相手になっている。利用者が月に2回の移動図書館を利用し、職員と一緒に借りに出ている。介護申請の代行や認定調査時の情報提供も行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外に出てしまいそうな様子をいち早く察知し、さり気なく声を掛けたり、一緒に外出する時間を作っている。	ベッドの柵などは本人の移動や介助しやすい位置にのみしている。職員は丁寧な言葉で接しており、言葉による拘束なども行われていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士の声掛けや行動を徹底し、情報を共有している。			

グループホームあたご

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対応している事が無いので、今後は知識として学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行い本人やご家族の疑問点などに対する説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の手紙の中、あるいは来宅時本人やご家族の思いを言って貰えるように心掛けています。	家族の来訪は様々であるが、一ヶ月に2～3回の方が多く、来訪時には必ず声掛けをし利用者の状況報告とホームへの意見等を聞くようにしている。担当職員より現況報告が毎月家族のもとへ送られ、外出行事のスナップ写真なども同封している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	可能な限りコミュニケーションがとれるよう心掛けています。	毎月一回全体会議を行い、その後ケース検討会議をしている。その都度司会者と書記を交代で行い、全職員が参加し活発に意見交換をしている。ホーム長が些細な事でも全員に聞き、職員も利用者について深く理解を得られると実のある会議となっている。利用者一人に職員一人が担当としてつき、モニタリング表や家族への便りを作成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自ら勤務に入り、申し送り時等に様々な悩みや意見を聴いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修を定期的に行っている。その際の勤務体制の整備もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔月のグループホーム連絡会主催の会への参加を行い、職員会議等に発表し、サービスの向上を図っている。		

グループホームあたご

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを重視し、本人の要求や不安を理解しようと工夫している。本人が話し易い環境作り、家庭的な温かさを作れるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労、これまでの経緯についての話を聴く。それから次の段階へと繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談を行う際には必ず本人に会いに行き、状況の確認を行い、支援の提案・相談を繰り返し行っている。希望に応じてホームの見学も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活、会話の中から利用者様の好きな事、得意とする事などを知り、利用者様から教えて頂けるような場面を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙で利用者様のご様子や本人の思い、職員の思いをきめ細かく伝えている。ご家族の来宅時には日々の状況、体調などを伝え、より良い協力関係を築けるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆、お正月などはご家族と共に過ごしたり、ご家族様との交流の機会は何よりの優先と位置付けている。	日帰りでお正月を自宅で過ごし、家族と一緒に新年を祝っている。お墓参りや四季の行事等の関わりについても支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶、食事の時間は職員も共に過ごし、多くの会話を持つようにしたり、趣味や体操、散歩など共同で行える時間を多く持ち、利用者同士の関係が円滑になるよう工夫している。		

グループホームあたご

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい場所でも情報提供を怠らず、きめ細かい連携を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で、言葉や表情から真意を推測したり、それとなく確認できるようにしている。	利用者と職員の長い時間をかけた関係づくりが出来ており、言葉以外にも表情や仕草で理解できる。自宅の状況を利用者が考え、「いつまでも此処に居てもいいのかな?」とか「調子が悪いから息子を呼んでくれ」とか訴えられ、その場で対応できることや時間を見計らい家族に面会に来て頂くようにお願いをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との会話の中から、今まで過ごしてきた生活歴をお聞き出来る場面が作られたり、ご家族から職歴や生活歴など可能な限り情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム、本人の状態を把握し、一日の暮らし方を確認している。そして、それを確認し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の暮らしに沿ったサポート、本人の思いなどをアセスメントし、ケース会議などで意見交換をしている。	利用者一人に職員一人が担当としてつき、日々の生活での気付きをケース検討会議で発表し、話し合いながら計画作成担当者が立てている。定期的な見直しが行われており、状況に変化が生じた時はその都度変更している。きめ細やかなケアプランが作成されており、外部からの来訪者の目に触れることのない職員専用の事務室のボードに一人ずつ張り出されていて職員はすぐに確認ができる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、食事摂取量・排泄等身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉やそのエピソードを記録している。また、月一回のカンファレンスで介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院や送迎などのサポートを行っている。		

グループホームあたご

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月二回の移動図書館の利用を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人・家族の希望で決定している。かかりつけ医に状態を適切に伝え、スムーズに治療が受けられるよう支援している。	利用開始後、家族の依頼により協力医へ変更された方が多い。かかりつけ医を継続され家族が受診に付き添う方もいる。協力医による往診が月2回、訪問看護が月2回行われていて利用者の健康面での管理が行き届いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化や心配事など、職場内の職員や訪問看護師と相談し、適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、病院関係者や家族と十分な情報交換を行い、安心して治療が受けられるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、家族や本人の意向を配慮し、十分な話し合いを設けた後に、支援を考え、取り組んでいる。	契約時に重度化した場合の対応について説明をしている。今年度、昼間普通に元気だった方が急変し、緊急手配をし病院で亡くなったケースがある。過去には医師の往診で対応しながら看取りを行ったケースもある。今後も家族や医師、職員との話し合いで対応していきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に心肺蘇生法、転倒時の対処法などの勉強会・講習会を行い、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っており、緊急時には直ぐに対処できるよう避難の方法を学んでいる。運営推進会議で地区の方々への依頼もしている。	自動火災報知機、消防署直通電話、煙探知機の設置がされている。非常時の連絡網などが台所に掲示してある。運営推進会議で議題として上げ、地域の方の協力をお願いしている。	23年度は消防へ連絡し行われたが、24年度は避難訓練が行われていない。定期的な訓練を利用者と一緒に行うことを強く望みます。

グループホームあたご

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に自分たちより年長者であり、人生経験の豊富さでは教えを請うスタンスでいる。人前でのプライバシーの話は内容や環境に十分注意している。	利用者は苗字にさん付けで呼んでいる。間違っ た言葉遣いの時はホーム長より注意がある。 利用者によっては就寝時間が利用前から11時 頃の方がいるが、統一することなく利用者の意 思に任せている。時々居室で放尿をしてしま う方もいるが他の利用者や来訪者にはわから ないように居室の消臭をしているという。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	本人が言い易い、訴え易い雰囲気であるよう に心掛けている。表現しにくい場合や思う ように言葉が出てこない時には急かせず、 ゆっくり時間を掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の本人の体調により、出来そうかな などを考慮・判断し、強制的にならない様に気 を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	着衣では、特に襟元、ボタン掛け、裾が出 ていないか注意している。整容面では、爪切 り、ひげそりのサポート、食事の際の口の周 りの汚れなど注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	メニューの偏りが無いか、前日や朝・昼・夕 何を食べたかチェックをし、その後調理に取 り掛かるよう配慮している。昼食時、下ご しらえや味見等をお願いし、可能な限り手伝 いをして頂いている。	一週間の食材を買い置きし、不足分の材料を 利用者と一緒に買いに出ている。料理は女性 の方が参加することが多く、出来ることをやっ て頂いている。全員が同じ料理を介助なしで会 話を交わしながら食べていた。出来たての料理 を「熱いから気をつけて」とか「遅くなりました」と か声をかけ合いながら楽しんでた。外出行事の 時、車イス対応の店に予約を入れ食事も楽し んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	体重のコントロールや糖尿・高血圧の持病 の悪化を防ぎ、改善できるよう考慮してい る。人により常食、キザミ。咀嚼の状態に合 わせて調理している。水分は多めに摂って 貰えるように時間を設けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	就寝前の歯磨き、義歯の管理を毎晩してい る。現在は、昼食後のケアは出来ていな い。本人任せになってしまっている。		

グループホームあたご

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた排泄介助をしている。出来る事は説明したり、見守るように心掛けている。時間を見図り、声掛けをしている。	夜間用にと利用者の居室にポータブルトイレが置かれている。自立されている方や介助が必要とされる方など対応も様々であるが、職員も一人ひとりを見守り、トイレでの排泄介助や排泄後の処置を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段の生活の中から、水分を多めに摂って貰うように心掛け、野菜の量にも留意している。排便の確認、状態のチェックを行い、与薬もその時に応じコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者が入りたい時に・・・というのは理解しているが、業務の都合上、曜日が決められている。時間帯の無理強いはいらないが、こちらで順番は決定しているようになっている。但し、眠気の強い時、食後直ぐには行わない。	一週間に2回の入浴を予定している。午前と午後に分け6人の利用者が交代で入浴している。お風呂場入口に段差があるため必ず見守りで行われている。車イスの方も浴室まで車いすで入り、その後職員の介助で入浴している。入浴剤を使用している。日帰り温泉に全員で行き、男性と女性(男性職員と女性職員がそれぞれ一緒に)で別れ楽しんだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動を促し、夜間に良眠出来るように工夫している。睡眠導入剤を服用されている方には、睡眠状況を把握し、日中の活動の妨げになっていないか確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋等を管理し、職員全員で把握できるよう徹底している。服薬時には本人に手渡しするか、口の中へ入れさせて貰っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、野菜、花の手入れ、水くれなど利用者様の経験や知識を発揮出来る場面を多く作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた場所や、希望する場所の決定を共に行い、自動車や車椅子等を利用し、戸外へ出る事を積極的に行っている。	ホーム周辺に公園が数カ所あり、そこが散歩コースとなっている。職員が毎月交代で外出担当の係となり計画が立てられている。訪問した前日も須坂市のお雛様を見学に行ってきたとことで昼食時にその話題で盛り上がっていた。戸隠へおそばを食べに行ったり、四季折々の花見をしたりと、毎月一回はドライブを兼ね外出している。	

グループホームあたご

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、少額のお金を持っている方もいる。本人の安心・満足に向けた支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への手紙やハガキ等を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品は本人が使っていた物、馴染みの物を積極的に取り入れている。絵・写真・手作りの物などは季節感を考慮している。	乾燥が少ない穏やかな暖かさのパネルヒーターを使用している。利用者の手書きによる絵のカレンダーや手芸品が飾られた台所兼食堂で料理をする姿を目で眺め、匂いを感じながらゆっくりとした時間を過ごしている。玄関に利用者の手作りの作品が飾られ来訪者を迎えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間はいつでも気軽に出入り出来、心地良い場所となるよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具、タンス、写真などの思い出の品々を家族にも協力を求め、居住空間を大切に出来るよう努めている。	畳の部屋をフローリングに改修し、ベットが置かれ利用者が過ごしやすい造りになっている。タンスや椅子などが家庭より運び込まれている。居室入口には利用者と職員合作の表札が掲げられている。本の好きな方の机の上には沢山の本が置かれていた。その人らしい居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手作りの表札や、なるべく解り易い目印を付けたたり、居室内の物の移動は本人と共にやっている。		